

# 火災や地震などの災害から命を守ろう！

～お年寄りや身体の不自由な方、ご家族の方へ～

- 住宅火災の死者に占める高齢者の割合が高い

住宅火災の死者のうち、65歳以上の高齢者の割合は約7割にのぼります。

(東京消防庁管内 平成24年から平成28年までの5年間)

- 高齢者や障害者は災害への対応が困難

首都直下地震（東京湾北部震源M7.3）による被害想定の死者は約1万人で、そのうち過半数が高齢者や障害者等です。

※ 平成24年東京都「首都直下地震等による東京の被害想定」

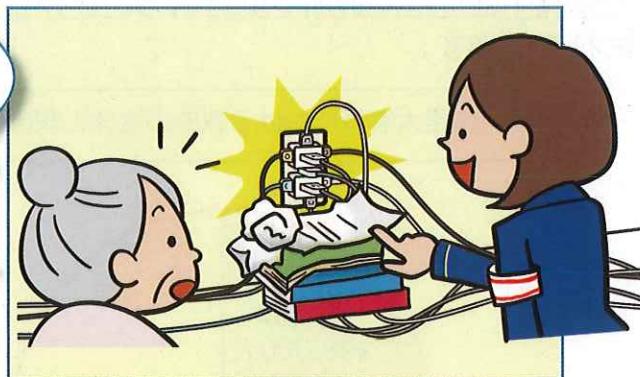
## 受けてみよう 住まいの防火防災診断

高齢者や障害者の方など、  
災害時に支援が必要な方のお宅を消防職員が訪問します。

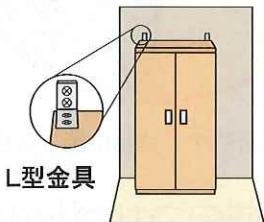
どこが危ないの？

うちは安全？

一度見てもらおうかしら？



火災、地震、家庭内事故等の危険性についてアドバイスなどを  
無料で行います。診断の所要時間は約30分です。



家具の固定方法  
など



住宅用火災警報器の  
点検方法など



転倒のもとになる  
段差など

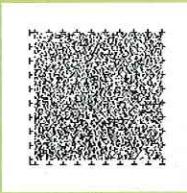
ご希望の方は、お気軽に最寄りの消防署までご相談ください。

東京消防庁

東京消防

検索

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp>



↑  
「視覚障害者用音声コード」

# 防火防災訓練に参加しよう！

地域の防火防災訓練に積極的に参加して、初期消火や避難訓練、救出・救護、安否確認などを体験してみましょう。

東京消防庁では、少人数でも・近所で・短い時間でできる！  
「まちかど防災訓練」を推進しています。

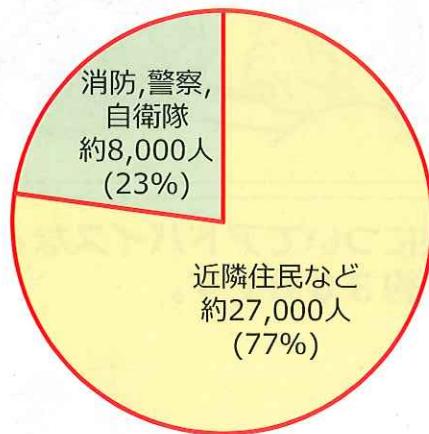
自宅周辺の路上で実際の火災等を想定し、地域に配備しているスタンドパイプや消火器などを活用し、ご近所同士で行う訓練です。ぜひ参加してみましょう。



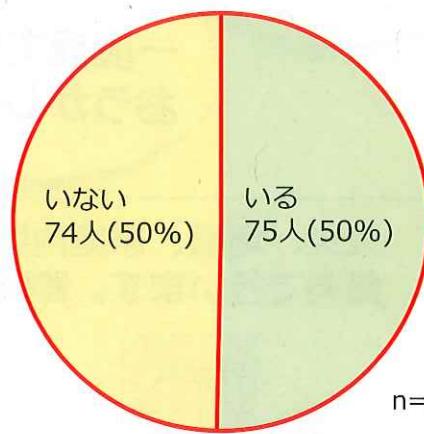
## 地域のつながりが、人の命を救います

阪神・淡路大震災では、消防隊ではなく近隣の住民により、多くの方が助け出されました。災害発生時には隣近所で助け合うことが重要ですが、近年地域のつながりの希薄化が指摘されています。

阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数



【緊急時に支援を必要としている方へ】  
問：あなたは緊急時に近所に頼れる知人がいますか？



※ 推計：河田恵昭「大規模地震災害による人的被害の予測」（平成9年）

※ 東京消防庁「消防に関する世論調査」（平成28年10月）

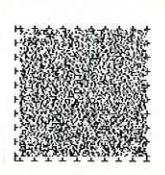
住まいの防火防災診断、防火防災訓練をとおして、地域のつながりの強化、地域防災力の向上を図りましょう！

お問合せは、最寄りの消防署へどうぞ

〒203-0052 東京都東久留米市幸町三丁目4番34号  
東久留米消防署

電話 042 (471) 0119番

（平成29年9月 東京消防庁防災安全課 作成）



↑  
「視覚障害者用音声コード」

このリーフレットは、目の不自由な方などへ情報提供できるよう、視覚障害者用音声コードと、音声コードの位置認識のための切込みを入れています。専用の読み取り機によりコードの読み取りをすると、リーフレットの内容が音声で読み上げられます。

専用読み取り機の給付などについては、区市町村の障害福祉担当課へお問合せください。

リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます